

未来へ
受け継ぐもの

立命館土曜講座

80周年記念
公開講演会

10月

——問いをつなぐ三つの講座

3日 大形 徹

文字と知

10日 安斎 育郎

平和と記憶

24日 サトウ タツヤ

文化と心

考え、
問い続ける力を
未来へ

どう見てきたか
どう考えてきたか
なにを大事にしてきたか
そして、これからどう問い続けるのか

10.3 土 大形 徹

立命館大学白川静記念東洋文字文化研究所 客員研究員
T&Y日本語学校 校長
大阪府立大学 名誉教授



「文字は、私たちの見方をどう受け継いできたのか」— 漢字から考える、世界の捉え方

私たちは、自分たちの文字を持っているのでしょうか。
漢字には知の体系が刻まれ、私たちの社会や考え方を支えてきました。本講演では、文字文化を手がかりに、どのような見方が受け継がれてきたのかを考えます。

文字と知

10.10 土 安斎育郎

立命館大学 名誉教授
立命館大学国際平和ミュージアム 終身名誉館長



「あらためて問う、平和とは、平和博物館とは何か？」

平和とは何か。
かつては「戦争の不在」とされてきた平和は、いま「暴力の不在」と捉え直されています。本講演では、この問いをあらためて見つめ直し、平和博物館の役割と未来の可能性を考えます。

平和と記憶

10.24 土 サトウ タツヤ

学校法人立命館 理事 / 副総長
立命館大学 副学長 / 総合心理学部 教授



文化と心 「ものの見方は、文化のなかでどのように育まれるのか」
— 多様性から複線性へ

私たちの「ものの見方」は、生まれ育った文化のなかで形づくられます。
文化は優しく私たちを支えますが、時に対立も生みます。違う振る舞いをする人を「同じ目的をもつ人」と捉え直す、複線性という考え方について考えてみませんか。

文化と心

ハイブリッド講座（衣笠キャンパス末川記念会館SK101+ZOOM）

参加費 無料



問いを深める特製ノートを参加者にプレゼント

時 間 10:00~11:30

電 話 (075) 465-8224

メール doyo@st.ritsumeai.ac.jp

要事前申込み



立命館土曜講座ホームページから

文字通訳配信あり

一部講座は、後日見逃し配信あり

主催：立命館大学衣笠総合研究機構

